

大雨及び降ひょう等に対する農作物の技術対策について

令和2年8月12日
農林水産部担い手支援課

千葉県では、12日昼過ぎから夜のはじめ頃にかけて、局地的に雷を伴って激しい雨が降り、大雨となる所がある見込みです。そのため、銚子地方气象台より、雷、突風、急な強い雨、降ひょうに対する注意が喚起されています。今後の気象情報に注意し、下記の対策指導をお願いします。

1 園芸共通

<事前対策>

- (1) ハウス・トンネル等の施設は倒壊しないように基礎及び支柱を補強すると共に、綱・紐などでビニールの破損防止に努める。また、状況によっては、ビニールを切り離し、施設の損傷を少なくする。
- (2) ビニールハウス・ガラスハウスのいずれも、ハウスの周囲に風で飛ばされるものがないように、周辺を片付ける。
- (3) 排水の悪いほ場では、あらかじめ排水溝などの整備をして、冠水や滞水を防ぐ。
- (4) ハウス周囲の側溝排水溝を整備し、雨水の流入、侵入を防ぐ。
- (5) 支柱栽培のものは、支柱の補強・結束等を行い、倒状を防止する。

<事後対策>

- (1) 施設が破損した場合は、速やかに補修を行う。
- (2) 冠水した場合は水を早急に排除し、根腐れを防止する。
- (3) 施設内に雨水が流入した場合は、できるだけ速やかに排水し、水が引いた後に、ベッドを整形するとともに中耕する。
- (4) 潮風等を受けた場合は、速やかに清水で洗う。
- (5) 栽培中の作物では、土壌の表面が乾いてきたら、追肥用化成などを用いて追肥を行い、軽く中耕を行うことにより生育の回復を促す。
- (6) コカブ、コマツナ、ニンジンなどで、発芽前の種子が流されたり、損傷の激しい場合は、速やかにまき直しを行う。
- (7) ネギが倒伏した場合は、丁寧に起こした後、窒素成分で10a当たり3kg程度の追肥を行う。

(8) 風雨のあとは特に病害の発生に注意し、薬剤散布を行う。

発生が懸念される病害は下記のとおり。

ネギ：軟腐病、白絹病

さといも：疫病

(9) 移植可能な野菜は補植苗を準備し、欠株した場合は速やかに植え付ける。

(10) 風害等により草勢が弱った場合には液肥の葉面散布を行い、草勢の回復を図る。

(11) 落雷等により停電が発生する恐れがあるため、電源や設備の状態に注意する。

2 果樹

<事前対策>

(1) ナシ（ブドウなどの棚仕立ての樹種もこれに準ずる。）

ア 主枝、亜主枝、側枝を棚へ結束する。

イ 主枝、亜主枝先の新梢を支柱に結束する。また、側枝先の新梢を固定する。

ウ 多目的防災網を設置してある園では、押え紐や控え紐（網が風で飛ばされないように、所々に網から引いてある紐）の補強を行う。

エ 多目的防災網の設置の有無にかかわらず、棚が上下して果実が損傷、落果するのを防ぐため、棚の所々に振れ止めを設置する。事前にブロック、肥料袋に土を入れる、等の重石を園内に準備しておく。

棚から針金などを垂らし、重石をつけて棚が振れないようにする。

オ 防風垣、防風網の補強をする。

カ 排水条件の悪い園では滞水しないようにする。

(2) 果樹全般

ア 主幹には、竹や丸太などで三方から支柱を取りつける。

イ 主枝、亜主枝、側枝も果実が大きくなって下がってきているので、支柱を取り付ける。

ウ 水田等排水の悪い園では、滞水しないように排水口を作っておく。

＜事後対策＞

（１）ナシ

- ア 落下した葉や果実は早めに処分する。
- イ 枝折れが発生した場合は、その基部から切除し、保護剤等を塗布する。

（２）イチジク

- ア 葉の損傷の激しい園では、防除指針に従い殺菌剤を散布し、病害感染を防ぐ。
- イ 雨水の侵入した園では、滞水しないように速やかな排水に努める。
- ウ 傷害果等は早急に園外に持出し処分する。

（３）キウイフルーツ

- ア 葉の損傷の激しい園では、防除指針に従い殺菌剤を散布し、病害感染を防ぐ。

（４）ブドウ

- ア 葉の損傷の激しい園では、防除指針に従い２～３日後に殺菌剤を散布し、病害感染を防ぐ。

（５）果樹全般

- ア 樹が倒伏したものは、無理のない範囲で徐々に起こし、土寄せし支柱を立てる。
- イ 潮風害を受けた地域では、風が収まった後、速やかに真水を葉面に散布し、塩分を洗い流す。
- ウ 園の排水に心がけ、滞水した場合は速やかに排水を図る。
- エ 多目的防災網の防風ネットが破損した園では、直ちに修理し、次の災害に備える。
- オ 散布する殺菌剤は「農作物病害虫雑草防除指針」の防除法を参照する。
- カ 収穫期を控えた果樹は、特に収穫前使用基準に注意する。